

# ふうしゃだより

WINDMILL LETTER

2022.  
4月号

皆様こんにちは。日本風力エネルギー（株）です。

上着なしでも過ごせる日が増えて、過ごしやすい季節となりました。  
今号では自治体や大手企業の動向からわかる再生可能エネルギーの可能性や、獣害から見た森林生態系に関するインタビューなどをお送りいたします。



## 注目CONTENTS

- ・国内初の風力発電・保守人材認定制度が福島県で進行中!
- ・世界中で広がるエネルギー不安。解消にはエネルギーミックス戦略が不可欠
- ・兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 准教授 藤木大介先生インタビュー

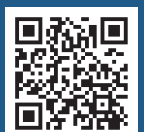


弊社が計画しております「(仮称)鳥取風力発電事業」は計画段階であり、風車の位置などは地域住民や専門家のご意見を頂きながら、進めてまいります。説明会や話し合いの機会を頂戴できますと幸甚です。環境影響評価方法書への知事意見として、「住民等一人一人にきちんと情報が届くように丁寧に説明をおこなうこと」が求められました。「ふうしゃだより」が情報提供の一端を担えるよう尽力してまいります。

お問い合わせ

日本風力エネルギー株式会社 鳥取事業所 (鳥取風力合同会社)

〒680-0404 鳥取県八頭郡八頭町見槻中154-2 集LAB 2-A  
TEL. 0858-76-0700 FAX. 0858-76-0701



(仮称)鳥取風力発電事業 専用サイト: <https://project.venaenergy.co.jp/tottori/>



# 注目のエネルギーニュース



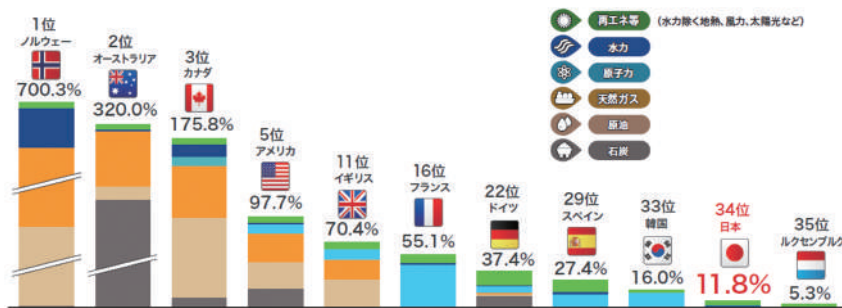
## 世界中で広がるエネルギー不安。 解消にはエネルギーミックス戦略が不可欠

### 様々な発電方法を取り入れ、リスク分散させるエネルギーミックス

ロシアのウクライナ侵攻をはじめ、様々な世界情勢を背景に世界中でエネルギーの高騰化が進んでいます。欧州各国で一般家庭に1ヶ月あたり20万円近くの電気代が請求されたニュースは記憶に新しいところですが。

エネルギー自給率が11.8%と低い日本においても例外ではありません。例えば原子力発電に不可欠なウランの生産は、世界の1/2をロシア近郊3か国が占めており、資源調達への不安は残ります。

これらを解消するには、特定の発電方法に頼るのではなく、様々な発電方法のメリットデメリットを考慮しながら組み合わせる「エネルギーミックス戦略」が欠かせません。原子力・水力・太陽光・風力など、それぞれの特性を状況に合わせて使い分けることでリスク分散につながるのです。



(出典) IEA「World Energy Balance 2019」の2018年推計値、日本のみ資源エネルギー庁「総合エネルギー統計」の2018年度確報値。



### 再生エネ活用に本腰を入れる企業が増加

生活の場に加え、企業においてもいかに安定的に、かつ脱炭素化した方法でエネルギー供給できるかは大きな課題ともなっています。再生エネ導入はもはや地方活性化の重要ポイントなのです。

#### 再生エネ導入に関する企業事例

##### サントリーHD

4月より30箇所すべての工場や研究所で購入する電力を再生エネに切り替え、CO2排出量を年間約15万t削減

##### 東急電鉄

4月より全線分、再生エネを導入。5万6千世帯の年間排出量に相当するCO2を削減できる見込み

##### NTTコミュニケーションズ

全国5つのデータセンターで再生エネを採用するとともに、ユーザーが購入電力を選択できるメニューを用意

### 新エネ育成や税優遇など、国や自治体の後押しも続々

企業の動向もふまえ、多くの地域では22年度から再生可能エネルギー普及や関連産業の育成、税優遇などの施策が本格化。内閣府は、脱炭素に先進的に取り組む「脱炭素先行地域」を100カ所以上選定する方針も明らかにしました。

また、国土交通省をはじめとする協議会では線路や廃線沿いに再生エネ発電施設を整備することを決定。太陽光発電のほか、強風や土砂災害による被害を防ぐために植林した「鉄道林」沿いなどには風力発電も整備される予定で、官民協働によるエネルギーミックス戦略が進められています。





## 国内初の風力発電・保守人材認定制度が 福島県で進行中!

**風力発電の保守・点検に関連する市場規模は年間94億円。  
企業参入と雇用創出へつなげる**

福島県いわき市では県と連携し、全国初となる風力発電に特化したメンテナンス（保守）技術者を認証する、独自制度の計画が進んでいます。福島県内では風力発電の導入が活発ですが、長期的な安定運用を目指す上でも設備の保守・点検分野に特化した人材育成が急務。これは同県に限った話ではなく、全国的な課題となっています。

### 【計画の概要】

- ① 一般社団法人と民間企業を開所し、県内のメンテナンス訓練施設と連携
- ② 将来的に国際基準による認証取得を目指し、国際レベルの技術者を養成
- ③ 県立テクノアカデミー2校の講義に、風車点検に必要な基礎訓練を盛り込み、風力発電関連産業への就業につなげる



県によれば、保守・点検に関連する市場規模は年間94億円にのぼると試算されており、再エネを先進的に取り入れる姿勢を積極的にアピールすることで、企業参入や産業創出につなげる意向です。

## ヴィーナ・エナジー グループの自然保全活動をご紹介します

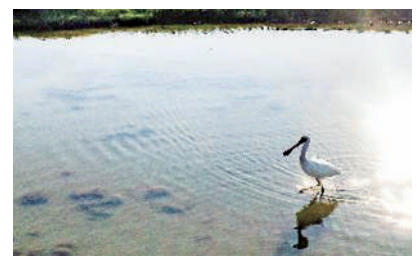
台湾発

### 放棄塩田を再生し絶滅危惧種のクロサギ飛来地となった ミンガス太陽光発電所（台湾）

台湾の嘉義県義竹郷の湿地に飛来するクロツラヘラサギ（クロサギ）は、IUCN（国際自然保護連合）によって絶滅危惧種に指定されている希少な野鳥です。この湿地はかつて塩田として使われていましたが、長らく放棄されたことで荒廃しつつありました。

そこでヴィーナ・エナジーはミンガス太陽光発電所を建設することで放棄塩田を再生し、クロサギをはじめとする野鳥が飛来しやすい環境整備を行ないました。建設にあたっては、冬期の移住期への影響を避けるために工期短縮し、水鳥を含む地元の野生生物の繁栄のため24.1ヘクタールのエリアを生態保全地域として確保。野鳥協会や崑山科技大學といった専門家と連携しながら、生物多様性と共存できる施設を目指しました。

また、敷地内には「ミンガスグリーンエネルギーエコ教育センター」を設置し、自然環境や生態系保全、再生可能エネルギーとの共生に関して学べるようになっています。



■さらに詳しい内容はビデオをご覧ください

「自然環境との調和」

<https://www.youtube.com/watch?v=scRaUIUUKPU&t=139s>

## Interview theme

ニホンジカが増えすぎること  
森林破壊につながる理由とは――。

## 適切な管理で生態系保全を

豊かな自然の象徴と思われているシカですが、  
実は増えすぎること森林破壊にもつながることをご存じですか？  
今回は、知られざる野生動物の影響や最新動向について、  
藤木先生にお話を伺いました。

### 今回のインタビューは

兵庫県立大学  
自然・環境科学研究所 准教授

藤木 大介 先生



ニホンジカの生態観察などから、森林生態系管理の方法を研究。森林保全のために必要な害獣予防策・管理施策を各種提言している。

### Q. ニホンジカが増えすぎている というのは本当ですか？

戦後から行なわれた保護政策の結果、  
非常に増えています。

シカが増えた理由としては森林保全が進んだことよりも、実は日本政府の保護政策の結果が一番大きいのです。

そもそも江戸時代は今と同じように獣害がひどかったのですが、明治時代に狩猟や猟銃規制が緩められたこと、さらに2回にわたる世界大戦の期間に防寒毛皮の需要が増加し、乱獲が進んだことで野生動物は激減しました。太平洋戦争が終わる頃には、シカはほとんどいなくなってしまったのです。そこで政府は狩猟獣からメスジカを外しました。その結果、徐々にシカは増えて80年代には目に見えて増えたのです。

### Q. シカが増える弊害はありますか？

あらゆるものを食べることで植生が減り、  
土砂災害につながることもあります。

シカは樹木の皮や落ち葉、繊維など何でも食べて生きていけます。そのため、もし下草がなくなるほど植生が減っても、シカの数はやや減らないのです。

下草がなくなると、下生えをすみかとする生物がいなくなってしまう、生態系が崩れ始めます。最終的には、表面土壌が雨水で流れ、溪流に流れ込んで河川生態系も崩れてしまいます。

山が崩れないのは、樹木の根が土壌や岩をしっかり掴んでいるからです。増えすぎたシカが伐採跡地などの森林再生を妨げる結果、その機能を失わせて土砂災害を引き起こすこともあります。シカを相当数減らなければ下草は再生しないと試算されています。鳥取県の場合は1/3以下まで減らさなければいけない状況でしょう。

### Q. シカの適正数を維持するためには どうしたらよいですか？

林道整備を通じ、まとめて捕獲しやすくする  
手法が考えられます。

人工林は人の手で適正な管理をしないと、ひよろひよろのモヤシ林になってしまいます。平成16年の台風23号ではモヤシ林が倒壊し、その跡地がシカの食害で森林再生が妨げられた結果、豪雨時に崩壊した事例が存在します。

シカを適正数にするには、罠や猟銃を使って捕獲するしかありません。ただ、銃規制が厳しい上に罠にも高い技術力が必要なため全国的にマンパワーが足りず、十分に捕獲できないのが現実です。

山奥は林道がなければ管理できませんが、林道に則した細かな作業道を作ることで、のり面の草を食べに集まったシカをまとめて捕獲しやすくなると考えられます。また、風力発電所の建設に伴い、林道が整備されることで、車で罠の状況を巡回できることもメリットになり得ます。

